

平成27年度

# 入試問題集 (抜粋)

公募推薦入試 (SA日程)  
一般入試 (SA日程)

平成27年度 入試問題集をご希望の方は、入試広報センターまでご請求ください。

【入試広報センター】TEL 06-6318-2020 (直通)

 成長に、本気。  
大阪人間科学大学

(解答番号  ~ )

第1問 次の文中の  ~  に入る最も適切な語句を、それぞれ下記の①~④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は  ~ 。

- 問 1  you go to bed early tonight, you will feel much better.  
 ① If                      ② But                      ③ Though                      ④ Because
- 問 2  she is young, she is relied on by many people.  
 ① But                      ② Though                      ③ However                      ④ So
- 問 3 He will help you if he  time.  
 ① has                      ② had                      ③ had had                      ④ will have
- 問 4 If you had done your best, you  the test.  
 ① would have passed                      ② would have failed  
 ③ would pass                      ④ would fail
- 問 5 The news that the Japanese team didn't win the games made us .  
 ① surprise                      ② surprising                      ③ to surprise                      ④ surprised
- 問 6 Don't forget  your umbrella when it looks like rain.  
 ① to leave                      ② to take                      ③ leaving                      ④ taking
- 問 7 We were  clean his house.  
 ① made to                      ② let to                      ③ made                      ④ let
- 問 8 The concert starts at seven. You  be late.  
 ① should                      ② should not                      ③ don't have to                      ④ may not
- 問 9 The population of China is about ten times  Japan.  
 ① as much as                      ② as large as  
 ③ as much as that of                      ④ as large as that of
- 問 10 He  a report just now.  
 ① has finished writing                      ② has finished to write  
 ③ finished writing                      ④ finished to write
- 問 11 She could  believe her eyes.  
 ① not hardly                      ② not hard                      ③ hardly                      ④ hard
- 問 12  president of the company, he has to do a lot of things.  
 ① Electing                      ② Elected                      ③ To elect                      ④ Elect
- 問 13 Listen  the principal says.  
 ① to carefully what                      ② carefully to what  
 ③ to carefully which                      ④ carefully to which

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜12)に答えなさい。

日本人とは何か。十代の頃からわたしはずっとこの問いを抱え続けてきた気がする。その問いへの関心の強さは、もちろん自分が日本人であり、そのアイデンティティーを明らかにしたいということからきているだろう。自分に自信を持ちたい、自分を肯定したい。こうした思いは誰にでもある。そうしたときに自分個人を対象にするとともに、自分が属している日本人という集団の「a」を見極めるというやり方もある。日本文化に積極的な意味があるのなら、それを身につけた自分もまた意味ある存在となることができる。そうした自然な思いが子どもの頃からあった。

たとえば、わたしは子どもの頃から非常に相撲好きだった。自分でも相撲を取ることを得意にしていたし、テレビで大鵬を見て応援したりなどしていた。相撲は明らかに日本文化だ。それをタイ得していることによつて、他の文化圏で育つた場合には身につけることのできない価値を身につけることができるのだと、なんとなく考えていた。

「相撲を取れないなんて、日本の男の子じゃない」という思いを勝手に抱いていた。こうした強い思い込みの裏には、放っておけばいつかこの独自の文化は廃れてしまうのではないかという不安感があった。事実、今子どもで相撲を遊びとして取る子はほぼ絶滅した。当たり前だと思っていた習慣がどんどん消えていっている。それが日本という国の現実だ。「甘え」という言葉は、日本文化の本質をえぐる概念であった。日本は、「甘え」ことができることを積極的に評価する文化を持っていた。上手に甘えることができる人間は、甘え下手なしつかり者よりも得をする傾向があった。しかし、甘え上手というのは、相手との「b」を上手に肌でつかんでいる人間ができることだ。ここは甘えても大丈夫だと思つた瞬間には、すつと相手の懐に飛び込んでみる。そうすることで親近感が生まれ、相手もかわいがってくれる。

うが柔軟な感じがある。というのは、上手に甘えの雰囲気を持ち込むことで、リラックスした空気や親密感が湧くからだ。誰に対してどういう状況ならばどの程度甘えの雰囲気を出しているのか。この見極めはなかなか高度だ。甘えという技は、実は素朴なものというよりは高度な判断力に基づいているものだとも言える。子どもでも、甘えられる人とそうでない人を見分けてうまくやっている。

少年犯罪が増えてくると、それは日本社会や親が子どもに甘すぎるからだという意見が当然出てくる。しかしそうした場合の「甘やかしすぎ」というのは、甘やかす程度のひどさもさることながら、肌と肌を触れ合わせるような親密感の中で甘やかしてはいるのではないか。一人部屋を与え、こもりきりになつても何も言わない。お金を使つても親に感謝するわけでもない。むしろ親とのコミュニケーションを嫌い自ら断っている。こうしたコミュニケーションを拒絶した相手に金を与えるというのはばかげた教育だ。

従来日本の庶民の家屋は狭く、お互いが関わり合わずにはいられない空間になつていった。そのうえ、外からも家の様子が丸見えの開放的な家屋であった。皆が嫌でも関わり続けなければいけない状況の中の甘やかしは、一人部屋で勝手に快楽だけを享受する環境を与える甘やかしとは自ずと質的に異なってくる。

渡辺京二「逝きし世の面影」(筆書房)の第十章「子どもの楽園」には、幕末から明治期にかけて日本を訪れた外国人が、日本ではどのように子どもが扱われているかを記述した文章がたくさん才められている。引用させてもらつと、「日本ほど子供が、下層社会の子供さえ、注意深く取り扱われている国は少なく、ここでは小さな、ませた、小器をつけた子供たちが結構家族全体の暴君になつている。」(ネット)、 「子供たちは、他のどこでより甘やかされ、おもねられてる」(ブスケ)、「私は日本が子供の天国であることをくりかえさざるを得ない。世界中で日本ほど、子供が親切に取り扱われ、

しかしタイミングを誤れば、単になれなれない「c」な人間として低い評価を受ける。これはちょうど相撲で押し引いたりかけひきをしているのに似ている感覚だ。

甘え上手の基盤には、他者に「触れる」身体感覚がある。お母さんのおっぱいを吸つたり、体にくっついて離れないのは、甘えている典型だ。このとき自分の体とお母さんの体は一つに張り付いている。張り付かれているほうからすれば鬱陶しい気もたまにはするが、基本的にはかわいく感じる。自分の体重を軽く相手にあずけてみるのも甘えの行為だ。恋人同士でもこれが見られる。おねだりを上手にするのも甘え上手だ。おじいちゃん、おばあちゃん、孫におねだりをされると弱い。相手のいわば「お世話欲」をユウ発するのが、甘えの技である。

甘えはいわば一つの技だ。使うタイミングや加減がカン心になる。成人式で大暴れをすれば告ソもされる。もう子どもではなくなるという境目の日に暴れてしまうのはタイミングが悪すぎる。暴れた側には甘えの心理が働いたであろうが、甘えの技があつたとは言いにくい。甘えを技と見たときに、彼はあまりに甘え下手だと言える。

誰にも甘えることができないのは、つらい。外で必死に戦っている人が家では赤ちゃんのように甘えるという話をよく聞く。どこかで自分を楽にし、受けとめてもらえる場所が欲しいのだ。それがエネルギーの源泉にもなる。甘えることが上手にできないというだけで、その人はずいぶんとつらさを抱え込みやすくなる。欧米とは異なり、子どもの甘えを基本的に認める日本の社会風土の中で育つた人間ならば、なおさら甘えたい欲求を持っている。子どもならば上手に甘えさせてくれたものが、大人になれば許されない。このギャップをどう越えていくか。いくつか道がある。

本当に自立してしっかりと大人になるといのがその一つだ。もう一つは大人になりつつも甘えの技を上手に使つていくという道だ。後者の道のほそして子供のために深い注意が払われる国はない。ニコニコしている所から判断すると、子供達は朝から晩まで幸福であるらしい。(モース)、「私はこれほど自分の子どもに喜びをおぼえる人々を見たことがない。子どもを抱いたり背負つたり、歩くときは手とり、子どもの遊戯を見つめたりそれに加わつたり、たえず新しい玩具をくれてやり、野遊びや祭りに連れて行き、子どもがいないとしんから満足することがない。他人の子どもにもそれなりの愛情と注意を注ぐ。父も母も、自分の子に誇りをもっている。毎朝六時ごろ十二人か十四人の男たちが低い癖に腰を下して、それぞれ自分の腕に二歳にもならぬ子どもを抱いて、かわいがつたり、一緒に遊んだり、自分の子どもの体格と知恵を見せびらかしているのを見てると大変面白い。その様子から判断すると、この朝の集まりでは、子どもが主な話題となつていらしい」(イザベラ・バード)

日本の親は子どもをむち打たない。これは西洋人には不思議なことのようにだった。こうした「子どもの楽園」は、基本的には悪いことではないとわたしは思う。ただしかつては、そこに礼儀作法のしつけが伴っていた。他人に対してどのように挨拶をしなければいけないのか、きちんとした席ではどのように振る舞わなければいけないのか、といった事柄が作法として身体に教え込まれていたのだ。特に公共的な感覚についてはしつけが行き届いていように思われる。そうしたしつけができていれば、あとはかわいがればよかった。こうした風土の中から甘え上手が生まれそれを可能とする大人が育つていった。

過去の日本社会をすべて「d」わけには当然いれないが、甘えの一つの技と見ることによつて、この社会に起こっているひずみの在処を明らかにすることができるとはならないだろうか。

(齋藤孝『「甘え」と日本人』による。)

問1 傍線部(ア)、(ウ)、(エ)、(オ)、(カ)のカタカナ部分と同じ漢字を使う熟語を、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は(ア)は①、(ウ)は②、(エ)は③、(オ)は④、(カ)は⑤。

- (ア) ① タイ遇 ② タイ制 ③ タイ称  
④ タイ児 ⑤ 忍タイ
- (ウ) ① ユウ導 ② ユウ取 ③ ユウ子  
④ 余ユウ ⑤ 金ユウ
- (エ) ① 習カン ② 疾カン ③ 難カン  
④ カン護 ⑤ カン臓
- (オ) ① ソ置 ② ソ略 ③ ソ織  
④ ソ追 ⑤ 要ソ
- (カ) ① 政ジ ② 撤シユウ ③ シユウ慣  
④ シユウ養 ⑤ リョウ土

問2 傍線部(イ)、(キ)の読み方として正しいものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は(イ)は⑥、(キ)は⑦。

- (イ) ① くずれ ② すたれ ③ ひびわれ  
④ こわれ ⑤ ただれ
- (キ) ① げんぐ ② どうぐ ③ たてぐ  
④ がんぐ ⑤ ゆうぐ

問3 空欄[a]に入る最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑧。

- ① 特異性 ② 本質 ③ 性質  
④ 異質性 ⑤ 特質

問8 傍線部(3)「質的に異なってくる」とあるが、どのように異なっているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑬。

- ① 一方は少年犯罪を助長する「甘やかし」であり、他方は少年犯罪を防止する「甘やかし」である  
② 一方はコミュニケーションをよくする「甘やかし」であり、他方はコミュニケーションを悪くする「甘やかし」である  
③ 一方は人とかかわりの中での「甘やかし」であり、他方は人と交わらない中での「甘やかし」である  
④ 一方は家の中が丸見えの中での「甘やかし」であり、他方は家の中が全く見えない中での「甘やかし」である  
⑤ 一方は親密感が湧く「甘やかし」であり、他方は疎外感に陥る「甘やかし」である

問9 傍線部(4)「おもねられている」とあるが、元々の「おもねる」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑭。

- ① 人の気に入られるようにすること  
② 人の気持ちを重んじ、大切に扱うこと  
③ 人の機嫌を損ねないように気配りすること  
④ 人から機嫌を取ってもらってちやほやされること  
⑤ 人から褒められるようにいつもにこにこしていること

問10 傍線部(5)「それを可能とする大人」とはどういう大人のことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑮。

問4 傍線部(1)「日本文化の本質をえぐる概念」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑨。

- ① 日本文化の本質をことごとく抽出する概念  
② 日本文化の本質を覆す概念  
③ 日本文化の本質を鋭く衝く概念  
④ 日本文化の本質を切り崩す概念  
⑤ 日本文化の本質を傷つける概念

問5 空欄[b]に入る最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑩。

- ① 一体感 ② 不全感 ③ 距離感  
④ 信頼感 ⑤ 共生感

問6 空欄[c]に入る最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑪。

- ① 無理解 ② 無反省 ③ 不器用  
④ 不作法 ⑤ 無頓着

問7 傍線部(2)「甘えの技があったとは言いいにくい」とあるが、それはどうしてか。最も不適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑫。

- ① 自立した大人になりきれていないから  
② 他者に触れる身体感覚を活用していないから  
③ 相手が世話を焼きたいと思うような態度ではないから  
④ どの程度甘えていいかの高度な判断力が欠けているから  
⑤ 親近感が湧くような雰囲気を持ち込むことに失敗しているから

問11 空欄[d]に入る最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑯。

① 肯定する ② 否定する ③ 絶賛する  
④ 貶める ⑤ 変更する

① 甘えの技を身につけることができた大人  
② 子どもに礼儀作法と甘えの技を身につけさせることのできる大人  
③ 公共的な感覚を作法として習得できた大人  
④ 甘え上手な子どもをそのまま受け入れることのできる大人  
⑤ 子どもを甘えさせることで礼儀作法を教え込むことのできる大人

問12 本文の内容として、適当なものに○印を、不適当なものに×印をつけた場合、最も適当な組み合わせを、次の①～⑧のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は⑰。

- a 「甘え」上手とは、自立精神の上に磨かれてこそ、発揮される技である  
b 「甘え」の技は、礼儀作法のしつけが伴って初めて確かな道徳性を獲得することになる  
c 「甘え」を一つの技とみることで、日本の社会のひずみを徹底的に是正することができる  
d 日本人は「甘え」を技として持つことで、独自の文化を形成してきた  
e 西洋人は子どもをむち打たない日本の習慣を、何よりも日本文化の根幹をなすものと見なしてきた

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
×	×	○	×	○	×	○	○	a
○	×	×	○	×	×	○	○	b
○	×	×	×	○	○	×	×	c
×	○	×	○	×	○	○	×	d
×	×	○	×	○	×	×	○	e

(組み合わせ)





第3問

次の各問について、解答番号  ~  に入る正しい答をそれぞれ①~④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

ただし、I~VIのうち、4つを選択して解答しなさい。

I. 5人でじゃんけんをする。このとき1回のじゃんけんで2人だけが勝つ確率は  $\frac{\text{9}}{81}$  である。

- ① 10                      ② 11                      ③ 13                      ④ 14

II.  $x$  についての2次方程式  $x^2 - 2kx + 2k + 3 = 0$  が、 $-2 < x < 4$  の範囲に異なる2つの実数解をもつとき、条件を満たす  $k$  の値の範囲は  である。ただし、 $k$  は正の数とする。

- ①  $2 < k < 4$               ②  $\frac{19}{6} < k < 4$               ③  $3 < k < \frac{19}{6}$               ④  $3 < k < 4$

III. 三角形 ABC について  $AB = c$ ,  $BC = a$ ,  $CA = b$  とする。

$a^2 + b^2 + c^2 = bc(\cos A + \frac{1}{2}) + ca(\cos B + \frac{1}{2}) + ab(\cos C + \frac{1}{2})$  が成り立つとき、三角形 ABC は  である。

- ① 二等辺三角形          ② 直角三角形              ③ 直角二等辺三角形      ④ 正三角形

IV.  $xy + 2x + 3y = 10$  を満たす整数  $x$ ,  $y$  は  組ある。

- ① 8                          ② 10                          ③ 12                          ④ 14

V. 一辺の長さが6の正八面体に内接する球の半径は  である。

- ① 2                          ②  $\sqrt{5}$                           ③  $\sqrt{6}$                           ④  $\sqrt{7}$

VI. 下の表は5人の生徒に30点満点の数学と英語の小テストを行った結果である。

生徒番号	1	2	3	4	5
数 学	10	16	4	8	22
英 語	12	18	6	20	24

数学と英語の得点の相関係数は  である。

- ① 0.5                      ② 0.6                      ③ 0.7                      ④ 0.8

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜12)に答えなさい。

自然は美しいとか、自然のなかへはいれとかいうと、「考え方や感じ方が古い」とか、「古い人間だ」とか言われる心配がある。いつかも大学生たちと川原を歩いているとき、そこにはえていた草の穂が美しいので、「きれいだね」と言ったら「自然に心をひかれるのですか。ずいぶん古いですね」と言われたことがある。

私は、そんなばかなことはないと思っている。人間の社会がいやになり、人間の社会から逃げだして、自然のなかだけにじこもって、世のなかを横目でみているのなら別だが、人間の社会に生き、人間のなかで活動している人間が、草や木を美しいと思ったところで、すこしもおかしいことはない。

それどころではない。いまのように世のなかで機械化しAしてくれば、いっそう自然のなかへはいりこみ、自然の美しさにふれて自分をゆたかにしていかなければならない。自然の生まれ出るのちになれて、自分をゆたかにしたり新鮮にしていったりしないと、ひからびた人間になり、機械の部分品のような人間になってしまう。

夏の夕方さく花に、月見草という花がある。これは「オオマツヨイゲサ」というのがほんとうの名で、いまから百年ばかり前に北アメリカから渡ってきた草だというのが、いまではこの川原にもあって、黄色い美しい大きな花をさかせている。

毎年夏になると、私はこの花がひらくのを楽しみにしている。自分でもみるだけでなく、お客さんがくると庭へつれていって、見てもらっている。花がひらくときのようですが、あまりにもみごとだからだ。

太陽が沈んでしばらくたつと、筆の穂のように大きくふくらんでいるつぼみ、ひらきはじめる。ぐるぐるっと花びらがゆれながらはげれはじめ、少しづつとる材料につかたりしたのだということである。

蒲という草がある。水のなかにはえ、夏になると、ろうそく形の赤褐色の花序をつける。これを「かまほこ」というのだが、私たちは子どものころ、この「かまほこ」に石油をつけて、ろうそくの代用にし、夜の川へ魚をとりにいったことがある。昔の人はこれをふとんのなかに入れたり、石油をつけてろうそくの代用にしたり、「ほくち」と言って、火打ち石でつくった火をうつしとる材料につかたりしたのだということである。

その蒲の穂が、秋になって穂わたをとばすときの光景もまったくすばらしい。太いろうそくのように固くなっている「かまほこ」が、むくむくとふくれ上がり、動き出し、なかから白いわたを、つぎつぎと出して飛び散っていくのである。

こうして種子をとばせるのであろうが、この場合も、なにか大きな力が働いて、動かししているように見える。月見草の花がひらくときと同じに、機械か何かがあつて、ぐんぐんと動かししているように見え、なにか話しかけたくなるようになる。生きものがそこにいるように見えるのである。

こういう植物の姿をみていると、まったく驚くことばかりである。美しいなあと思ひ、大きいなあと思ひ、人間の力などではつくり出すことのできない、法則とか合理とかセイミツさとかを持つていることを思ひ、自然にケンキョな気持ちになる。自分がどんなに小さく、どんなに不遜であり、なまじきであつたかということ、考えないわけにはいかなくなる。

おとなになると人間は、だんだんとかういう驚きを持たなくなってしまう。幼児や小さい子どもは、草が芽を出すのにも、花がひらくのにも、雨が落ちてくるのにも、竹の葉に風が渡るのにも、一つ一つ驚き、ふしぎな気持ちを持つたり喜びの声をあげたりする。けれどもおとなは、だんだんとそういうものになれてしまい、驚かなくなってしまう。

II、自分がまだ見たことのないものでも、知っていると思つて見すごしてしまつたりする。

こうなつてしまうのは、毎日毎日、仕事に追われたり、あくせくと金をも

たつととまる。そのときはまだ四枚の花びらの先はくつついているが、なにか静かに力をたくわえているように見える。そして少したつと、パツとひらいて行き、ひらき終わつて力を張りつめている。そうなつたとき最後に四枚の夢が、おさめでもするように、パツ、パツとすばやくひらき、花全体がしずまりかえつてくる。

そんなようすをみていると、ほんとうにふしぎな感じにおそわれる。地下になにか機械でもはいつていて、動かしているのではないかと思うことがある。夕方になり、同じ時刻になると、その日にさくつぼみは、どのつぼみもどのつぼみも、時刻をあやまたずにひらき出すのにもおどろかされる。

この月見草の花は、ひらくときに音がするということだった。ある人は、部屋のなかにも、ひらくときの音が、ボンボンときこえたなどということを書いてきた。

それで私は何十年前前に、月見草の花がひらくときの音をきこうと思つて、川原へ出ていった。けれども、音は少しもきこえなかつた。何十、何百とひらいているのだが、少しもきこえないのだつた。

A そうすると、四枚の花びらがはぐれ出し、しばらく休んで、四枚の花びらの先のくつついているところがパツとひらくとき、バサツとか、サーとか、スーとか音がするのだつた。

I それも、ほんとうに近づいてよくきいていなければ聞こえないような、かすかな音だつた。

U それでこんどは私は、ひらきそうになっているつぼみのところへ行つて、じつとそれをみている。

E しかもどの花もみな音がするのではなく、七つに一つの割合でしか音はしないのだつた。

うけようとしていたり出世をしようとしていたりしているからなのだが、人間としてはだめになつてしまふ。驚かないということ、毎日毎日平凡にくりかえしているということだからである。新鮮な驚きを持たないと、新鮮さとかある。

B とかのない俗物になつてしまふからである。自然とか、すぐれた芸術作品にふれるとかいうことは、驚きを持ち、自分を新鮮にしていこうということである。いままでも自分が考えもしなかつたようなものを、自然とか芸術作品とかのなかに見出し、驚いたり自分の世界をひろげたりして、自分の通俗性とか平凡な世界とかからぬけ出していくことである。

そういう意味で、私はおとなになればなるほど、自分が陳腐になり常識的になればなるほど、すぐれた芸術作品に数多くふれなければならぬのだと思ふ。III、芸術作品のなかにある新鮮なものから学んで、こんな世界もあつたのかと驚いたり、こんな平凡なところにこんな美しいものがあるのかと、目をさまされたりしていかなければならぬのだと思ふ。

それとともに自然の姿に数多くふれ、自然のなかにある法則とか合理とか美しさとか大きさとかを学びとつていかなければならない。自然はどこにもあるから、いつでも、どこでも、自然から学ぶことができるのである。

自然のなかにはいりこみ、自然のセイミツさとか、自然の大きいものちにかにふれ、自然と心を通い合わせたり、自然から学んだりしたとき、人間は自分がいかにビショウであつたかに気づく。ビショウであるのに、努力もしないで不遜になつていたことに気づき、恥ずかしくなつたり、つつましくなつたりする。

そればかりではない。自然の持つている、生まれいずるいのちになれることによつて、平凡なくりかえしだけをしてきた日常の生活からときはなれた力を与えられたり、ジュウソクしたゆたかな気持ちになつたりするのである。仕事に疲れはれたり、気持ちがあらあらしくなつたり、自信をなくしてしま

つたりした人も、自然からのちを与えられて、いのちをよみがえらせ、自信をとりもどしたり、暖かい気持ちになったりすることもできるのである。

よくみればなつな花咲く垣根かな

これは芭蕉はせきやうの俳句だが、いままで何もなかった垣根の下に、なすなの花が白々とつつましく咲いているのを発見して驚いている。ほんとうによく見れば、どこにでも真実なものはあり、美しいものはある。こういう発見をし、驚きをつぎつぎとしていくことによって、人間は、たえず自分をあたらしくし、新鮮にしていけることができるのである。

そうして、そういう人間は、人間をみる場合も、形式的にみたり、常識的にみたり、一般的にみたりしなくなる。<sup>(6)</sup>いままで何もないと思つた人のなかに美しいものをみたり、暖かいものをみつけ出したりするようになる。そしてそういうところから、ほかの人間をたいせつにしたり、ほかの人間と、しみじみと心を通い合わせたりすることもできるようになっていく。そして、<sup>(7)</sup>そういうことからまた、自分自身をゆたかに成長させることができるようになっていく。

Ⅳ 自然のなかにはいりこみ、自然と心を通い合わせ、自然から学ぶということとは、人間性を回復するということでもある。日常のいそがしい生活のなかで、驚きをなくしたり、不遜になったり、あらあらしくなつたりした人間が、自然の摂理から学んで、自分をよみがえらせたり、あたらしく自分を発見したりして、自分を人間的にしていこうということでもある。

(斎藤喜博『君の可能性』による。  
なお、出題にあたり文章の一部を変更しています。)

ないと思つているから

問4 傍線部(2)「横目でみている」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は10。

- ① 自分の期待するように、物事を見ようとする
- ② 正面から見ずに、斜に構えて見ること
- ③ 自分より優れていることを認めて敬意を払うこと
- ④ みとれてしまつて、他のものが目には見えないこと
- ⑤ 不正が行われていないか、しっかりと見ること

問5 空欄A、Bに入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は11、Bは12。

- A
- ① 合理化
  - ② 活性化
  - ③ 流動化
  - ④ 固定化
  - ⑤ 社会化
- B
- ① 人間性
  - ② 創造性
  - ③ 思弁性
  - ④ 精神性
  - ⑤ 芸術性

問6 本文中の線で囲まれた段落のA～Eの文の順序は正しくない。正しい順序として最も適当なものを、次の①～⑦のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は13。

- ① A—ウ—イ—エ
- ② ウ—イ—ア—エ

問1 傍線部(a)～(d)の傍線部に該当する漢字を、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は(a)は1、(b)は2、(c)は3、(d)は4。

- (a) セイミツ ① 成 ② 精 ③ 誠 ④ 製 ⑤ 整
- (b) ケンキョ ① 検 ② 献 ③ 件 ④ 懸 ⑤ 謙
- (c) ビシヨウ ① 美 ② 備 ③ 尾 ④ 眉 ⑤ 微
- (d) ジュウソク ① 従 ② 重 ③ 充 ④ 柔 ⑤ 十

問2 空欄I～IVに入る最も適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号にマークしなさい。ただし、同じものを二度使うことはありません。解答番号はIは5、IIは6、IIIは7、IVは8。

- ① だから ② また ③ しかし ④ そして

問3 傍線部(1)「私は、そんなばかなことではないと思つている」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は9。

- ① 大学生に日本的な因習に染まることを指摘され、不愉快に思つたから
- ② 人間は社会がいやになると逃げ出し、自然のなかだけにとじこもつてしまうから
- ③ 大学生から自然に心をひかれることをからかわれ、不愉快に思つたから
- ④ 自然の美しさにふれずに、システムの構成要素の一部になるとを望んでいるから
- ⑤ 自然の美しさにふれて、自分をゆたかにしていかなければなら

問7 傍線部(3)「不遜」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は14。

- ① 損得で物事を判断しがちであること
- ② へりくだる気持ちがなく、思い上がっていること
- ③ 道理にはずれていて、けしからぬこと
- ④ 人の力に頼つて、努力を怠ること
- ⑤ 頑固で自分の意志を曲げず、他人に心を開こうとしないこと

問8 傍線部(4)「おとなになると人間は、だんだんとかういう驚きを持たなくなつてしまう」とあるが、なぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は15。

- ① おとなになると、日々の生活を謳歌おうかすることに忙しく、自然のことに對して関心を示す余裕がなくなるから
- ② おとなになると、自然の微細な変化に對して自分は何んでも知つていると思つて見過ごし、傲慢になるから
- ③ おとなになると、自然が教えてくれるものに対して誠実な気持ちになることができなくなるから
- ④ おとなになると、あくせくとした日常の生活に追われ、自然に對する不思議な気持ちをもたなくなつてしまうから

⑤ おとなになると、感受性そのものが硬直化し、自然の絶大な力に対して畏怖の念を抱かなくなるから

問9

傍線部(5)「つつましくなったりする」とあるが、「つつましい」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は16。

- ① 自分を包み込んで、個性をなくしていること
- ② よく見せようとうわべを飾ること
- ③ 心に深く刻みつけて、忘れないこと
- ④ 思うように事が運ばなくて、あせること
- ⑤ 控えめで、遠慮深けであること

問10

傍線部(6)「いままで何もないと思った人のなかに美しいものを見たり、暖かいものを見つけ出したりするようになる」とあるが、そのようなことができるようになるのは、なぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は17。

- ① 自然のなかにある法則とか合理とか、自然の摂理を知ること、自分自身の気持ちが高揚されるから
- ② 自然のなかにみずから積極的に入り込み学んでいくことで、自然を凌駕りやうがすることができるから
- ③ 卓越した芸術作品にたくさんふれることにより、感受性をゆたかにする努力を怠らないから
- ④ どこにでもある自然から真実のもの、美しいものを発見し、たえず自分自身をあたらしくしていくから
- ⑤ 他者を大切にし、他者と心理的交流を活発にするよう常に心が

(組み合わせ)

①	×	×	○	○	○	a
②	×	○	○	×	×	b
③	○	×	×	×	×	c
④	○	○	×	×	×	d
⑤	×	×	×	×	×	e
⑥	○	×	×	×	×	a
⑦	×	○	×	×	×	b
⑧	○	×	×	×	×	c

けているから

問11

傍線部(7)「そういう」の品詞はどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は18。

- ① 連体詞
- ② 副詞
- ③ 形容動詞
- ④ 代名詞
- ⑤ 名詞

問12

本文の内容として、適当なものに○印を、不適当なものに×印をつけた場合、最も適当な組み合わせを、①～⑧のうちから一つ選び、その番号にマークしなさい。解答番号は19。

- a 人間は植物の成長する姿から人間の力ではなしえない自然の摂理があることを理解し、自然に対して誠実な姿勢をもち続けることが大切である
- b 人間はおとなになると自然に対して賛嘆することがなくなり、自分ほどのようなことでもわかっていると思いきむが、自然の偉大さには気づいているものである
- c 人間は自然にふれることで平凡な世界からぬけ出すと同時に、自然に対する驚きを経験することで自分を新鮮にしていることができる
- d 人間は自然のいのちにふれることで自分のいのちをよみがえらせるが、さらに他者を大切にするために、自然を一層保護していかねばならぬ
- e 人間はあらたな自分を発見することによって人間らしくなり、自然の卓越した力に対してはじめて敬意を払うようになる